

18/12/28 特別史跡名古屋城跡バリアフリー検討会議 終了後の西野所長記者会見(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしまとめ)

記者：あらためて今日の議論、印象としては割と厳しめの意見が多かったかのではないかと私は思ったのですが、所長はどのように受け止めていますか

西野：非常にあの、なんといいですか、我々として非常に参考になる意見をいただきましたので、非常にありがたかったと思いますので、今日のご意見を受けとめて、我々これからいわゆる募集の要項といいですか、公募の内容をこれから作っていかなければいけませんので、そういう中ですね、しっかりと先生方の意見を受け止めながら、そういうふうに思っています。

記者：指摘にあった、時間が非常に厳しいのではないかとということで、来年すぐに公募にするのは変わらないということでしょうか。

西野：時間につきましては、基本的には天守閣の竣工 2022 年ですね。その竣工時にバリアフリーもきちんと対策がとれている。ということを我々目指しておりますので、2022 年までにということではございますけれども、きょうのご意見も踏まえながら、募集の条件をどうしていくかということについては検討するというふうに思います。

記者：今日は、対象者をどうするかという議論が割と多かったのですが、現時点ではどうするおつもりでしょうか。

西野：やはりあの、だれもが天守閣に入って、天守閣をご覧いただけるということ、我々目指しておりますので、そういう意味では、電動車椅子の方、まあ乗り換えが難しい方、そういった方々に対する対策もですね、十分に取れるようにしていかなければいけない、そう認識でおるところです。

記者：たしか三浦先生だったと思うんですけども、やはりかなり現実的という意味で、電動車椅子の対応というのは難しいのではないかと、段階的にやってはどうかという意見もありましたが、どのようにお考えですか。

西野：そういったことも踏まえて、募集の条件を検討していきたい。というふうに思っております。

記者：昇降機、エレベーターに変わるような施設もあってもいいんじゃないか、という話

しだったと思うんですけども、ちょっとエレベーターに準ずるものについて再考できるのでしょうか。

西野：これから募集の条件を決めていきますけれども、基本的にですね我々史実に忠実に復元をするということで、現在のエレベーターの技術でですね、中にエレベーターを入れるということ。どうしても11人乗り、15人乗りということであると梁を切ったりしなきゃいけないということで、もともとの天守閣の構造を変えてしまう。ということがありますので、エレベーターは採用しないというふうにしておりますけれども、そういうですね、史実に忠実というところを守りながら負荷設備として考えられるそういう昇降の器具というものについてはですね、検討の余地はあるんじゃないか、そういうふうには思います。

記者：2019年にはじめられるとおっしゃられましたけれども、公募の条件であったり、スケジュールを変える予定ですか。

西野：今年度ですね、中にですね、かなり検討を進めまして、来年度早々には募集条件を固めるようにしていきたい。というように思っています。

記者：この検討会議をもう一度開いて、募集条項を検討する予定でしょうか。

西野：私どもですね、今回のこの有識者会議において、そういう募集の内容につきまして、ご説明をし、ご意見をいただきたい。というように思っております。

記者：案1、案2のスキームを示されましたが、全般では案2の方が有利だったような気がするのですが、例えば審査回数を何回にするかというのは主な議題だったのですが、そこは今日の内容でほぼ固まったと考えていいのでしょうか。

西野：今日いただいたご意見をもう一度よく吟味をして、それから検討しますので、ちょっとまだ案1案2ということにつきましても、今の時点ではちょっとあの、どちらがどうとはちょっと申し上げられなれないなと思います。

記者：責任について、さっきの電動車椅子の点で確認ですけど、段階的にバリアフリーを改善していくというか、22年竣工でこの程度、そこからさらに延ばす、みたいなことも視野に入っているのでしょうか。

西野：現時点では2022年竣工時にバリアフリーの対策がきちっととれている。ということを目指しているということです。

今日そういうご意見をいただきましたので、そういったことも踏まえて公募の条件をこれから検討していきたい。そういうように思っています。

記者：2022年に完成するかどうかという見通しが立っていない状況で、文化庁の許可がでていないという状況でのスケジュール案だったんですけど、これだと結局一回スケジュールを組み直さないといけなくなるんじゃないかという気がするんですけど。実質的に見通したっていないわけじゃないですか。机上の空論になるんだと思うのですが。

西野：2022年を目指すということは我々、見通しは今言われたとおり立っておりませんが、それを目指してやっているという今状況がありますから、それを見据えて、バリアフリーの対策も取っていこうと、そういうふう考えているところです。

記者：確認ですけど、対象はあらゆる障害者ということでよいのでしょうか。

西野：はい。

記者：分けるんじゃなくて、現状では、あらゆる障害者の方をあげるための装置ということで。

記者：そういうふう考えて、皆さんに上がっていただけるようにというふう考えております。

記者：対象を変えるつもりはないんですか。今日の議論を踏まえて

西野：バリアフリーをですね、木造天守についてバリアフリーをきちっととっていかうということ。ですので、ここまでの人はいいです、こっからの人はちょっと難しいですということは、我々としては避けていきたいなと思っております。

記者：この会議の位置づけで、コンペの位置づけなんですけれども、コンペで必ずバリアフリーの設備を決めるということなのか、市長は以前たしか会社を見つけてきてこういうふうのがありますという上で、さらにコンペもして検討するというような言い方をされていたと思うので、コンペによって決めるでよいのでしょうか。

西野：現時点ではまだそこまで確定はしておりませんが、コンペをやっていくということですので当然我々としてはそのコンペの結果、それに一番期待をして進めている。そういうことになると思います。

記者：2案の中から決めるのでしょうか。もしくはまた検討するのでしょうか。

西野：今日お示しした2案っていうのはあくまでもたたき台ということですので、今日いただいた意見をもとに、構築していきたいなというふうに思っております。

記者：別の方法があるということですか。

西野：そうですね。

記者：各社さんよろしいでしょうか。ありがとうございます。